



会礼の話 10月

10月も半ばを迎えました。4月から始まった今の学年が、半分以上過ぎたことになります。あんなに暑い夏だったのが、朝晩はだいぶ涼しくなり、肌寒さを感じるようになりました。日中は暑くも寒くもなく、運動や勉強にぴったりの季節です。今週の土曜日には運動会を控え、「一人一人が主役になる笠原っ子」のスローガンのもと、1年生から6年生まで一生懸命に練習に取り組んでいますね。今日はそんな皆さんの「徒競走で少しでも早く走ろう」「かっこよく、素敵にダンスを踊ろう」と頑張っている姿を見ていて思ったこととお話しします。

それは「記録を破る」ということについてです。「記録を破る」ということは、大きく分けて二つあると思います。一つ目は、「ほかの人が作った記録を破る」ということです。二つ目は「自分が作った記録を破る」ということです。皆さんは、どちらの記録を破るほうがすごいことだと思いますか。もちろん、どちらも立派で素晴らしいことだと思います。でも、校長先生は、みなさんに、他の人が作った記録を破るより、自分の作った記録を破ることに力を入れてもらいたいと思います。他の人が作った記録は、決して破れない記録もありますし、たまたま相手の調子が悪かったということもあるかもしれません。ですが、自分が作った記録を破るということは、誰が何といても自分の力で破ったことになります。徒競走などで、たとえ1位になれなかったとしても自分も頑張ったし、同じように友達も頑張ったことになります。「自分も友達もみんなが精いっぱい頑張る」これが、校長先生の思う「一人一人が輝く学校」だと思います。

皆さんも聞いたことがあるかもしれませんが「世界に一つだけの花」という歌があります。その歌詞には「ナンバーワンよりもオンリーワン」という言葉があります。この歌詞の意味は、一人一人が一番を目指すということよりも、自分の記録を破れるように精いっぱい努力していくことが大切なのだとおっしゃっていると思います。運動会に向けて、そしてそのあとも続く学校生活の中で、一人一人が輝いていくことを期待しています。これで、校長先生のお話を終わります。

